|  |  |
| --- | --- |
| 会議の結果 | |
| 件　　　名 | 令和４年度田辺市社会教育委員会議　第２回定例会 |
| 日　　　時 | 令和４年７月27日（水曜日）　　14時00分～15時25分 |
| 場　　　所 | 中辺路コミュニティセンター　大会議室 |
|  | ○社会教育委員  出席者10名：　松場議長、尾崎副議長、稲垣委員、加藤委員、九鬼委員、小山委員  近藤委員、坂本委員、西川委員、柳川委員  欠席者３名：　佐久間委員、砂野委員、中根委員  ○事務局７名：　佐武教育長、前川教育次長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長  尾﨑公民館係長、遠山公民館係主査、森口生涯学習推進係主事 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）第２次田辺市生涯学習推進計画（前期基本計画）令和３年度実施報告書について

（２）文化振興課　　　７～９月の行事予定について

（３）歴史民俗資料館　７～８月の行事予定について

（４）南方熊楠顕彰館　７～９月の行事予定について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ａ委員：事務局から話がありましたようにコロナの関係で評価がCとかDになっているのは分かるのですが、29Pの田辺市地域を創る生涯学習推進会議について、生涯学習推進計画に委員名簿が載っていて前から気になっているのですが、この会議がほとんど開かれていないように思います。コロナの関係でネット配信であったり、シンポジウムのアンケートにYouTubeで配信したらという意見があるなかでどんどん生涯学習の計画などをどうしていけばいいのかをいろいろ考える時期に来ていると思います。そうしたなか、推進会議が開かれていないというのはPDCAが大事だと言われているなかで不備ではないかと思います。

事務局：ご指摘のとおり、ここ数年、会議は開催できておりません。毎年の計画と実績報告を作成するにあたって各課とやりとりしながら本計画と実績及び評価を提出いただき、集計してこの資料を作成しており、その中でPDCAを行っている状況ですが、推進計画を策定していくにあたって庁内での議論も必要であり、検討していますのでご理解の程よろしくお願いします。

４．協議

（１）生涯学習推進計画について、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ａ委員：企画部会または他の委員さんの意見をふまえてまとめていただきありがとうございます。ただ、改めて読んでみて重点プラン①の３行目の本計画期間内においては、とありますが、前段に本計画期間内に特に力点を置いてと書いているのでなくていいのではと思います。「継続して実施します。地域が抱える様々な」で良いと思います。

副議長：重点プラン①と③はテーマが違うがどちらも講座の開催という括りになるのはいいのかどうか。このままでもいいと思いますが、カテゴリーの分け方として正しいのかどうかちょっと気になりました。

Ａ委員：①は社会教育委員会議が主になって取り組むべき内容であって、③は地区公民館においてと書いているように公民館が主になって取り組む内容なので分けてもいいのかなと思います。

議長：初めて読んだ方は副議長のような疑問をもつと思います。私も最初に見たとき、両方講座の事だから、重点プラン③は①のなかに入れていいのかなと思いました。③の題目のところに公民館という文言をはっきり入れるのは具合が悪いのですか。

Ｂ委員：③について前回の会議で公民館の位置づけとか話が出たことが私個人として良いと思いました。話が出る事によって年間の公民館の計画のなかできちんと積み上げていこうとする動きが見えます。①と③の違いは地区公民館がこれから本当に地域を盛り上げていくような、学習していくような場をどう作っていくのかが見えてくると思うのですごく良いと思いました。

副議長：下から２行目に地区公民館においてと書かれています。なので、最後は「持続可能な地域づくりについての事業を実施します。」でいいのではと思います。ここに講座等と書いて具体的に提示するのは良いけども講座にこだわらなくていいのであれば書く必要はないのかと思います。より具体的に書かないといけないのか。

事務局：１つ具体的に講座を入れつつも等と書いているのは、講座に限らずいろいろな事業が含みこまれているので副議長がおっしゃるように持続可能な地域づくりについての事業で問題ないです。

Ｃ委員：講座等と書くと事業をするにしても講座をするにしても以前にも出たと思いますが、公民館の職員の資質がものすごく問われると思います。「達成に向けた学びを推進するとともに地区公民館において事業を実施します。」とあるので公民館の職員にはかなり勉強していただき、頑張っていただきたいという意味で良いと思います。

Ａ委員：ちょっと案ですが、重点プラン③の題目のところに各公民館においてとつけるのは難しいですか。「各公民館においてＳＤＧs達成と持続可能な地域づくりに向けた講座等の実施」とするのはしんどいですか。

事務局：事務局なので発言権はないのですが、重点プラン③について、題目の「講座等の実施」についていろいろと意見が出ているなかで、「地域活動の実施」というふうにすると皆さんの思いに代わる言葉かと事務局的に思うのですが、またご議論いただければと思います。そして、講座という言葉にこだわるのであれば、本文のなかの講座はそのまま生かすとか協議のなかでお決めいただければと思います。

Ｃ委員：題目の地域づくりに向けた講座等というのはなくても下の本文に入っているのでいいと思い　ます。だけど、Ａ委員がおっしゃる地区公民館においてを題目に入れるのは良いと思います。

Ｂ委員：地域の住んでいる人たちのいろいろな意識とか学びとかそういうことをしていこうと思ったら、講座というか学ぶ場は大事だと思うので講座等で良いのではと思います。

議長：各公民館においてまたは地区公民館においてなど、どこで学ぶのかというのをはっきり明記したら講座でもいいのかなと思います。どちらも講座なので初めてこの資料を読んだ人が迷う表現になっていると思います。なかなか各公民館が講座をするというように私は読めなかったんですよね。題目においてどこで講座をするのか明記する方がはっきりとアクションプランが提示できるという面があります。また、各公民館では人権推進員と生涯学習推進員がおられて今までは人権教育があって講座をどうしたらいいのかをメインに開いていたのですが、各地区の課題を解決できるので皆さんお願いしますという形になってきていることもあって、これをあげていただければ各公民館でどんな講座にしましょうかという話をする時にここが大きなヒントとして提示できるのではないかと思います。

Ａ委員：最初に副議長がおっしゃった問題もありますし、私もＢ委員がおっしゃったように各公民館の活性化はぜひ必要だと思います。だから、重点プラン③の題目にはっきりと地区公民館においてと書くことで問題はクリアされますし、各公民館でもこれをしないといけないという意気込みになりますし、皆で考えていかないといけないとなる。題目に書いた方が意識づけになると思います。

議長：ここから後は事務局に預けてもいいですか。社会教育委員みなさんの意見としては、①と③がどこが主体かはっきりと分かりにくいので③の題目に地区公民館においてと明記するという意見と学びは大事にしたいから講座はそのままでいいという意見がありますので検討いただければと思います。

Ｄ委員：重点プラン②の学社融合の推進について、計画についてということではないのですが、学校側で住民側へ何かしてくれませんかということを聞かれたことがないんですが、これはどういうふうに決まっているんでしょうか。

事務局：学社融合推進協議会は各学校の校長が主体となって招集をかけ、学校運営についての話し合いと社会教育の部分の出来ること出来ないことを協議する会議となっています。それぞれの協議会において温度差がある部分も確かにあります。そのなかで学校側からこういったことができませんかと意見を頂いて協議会で進めていくのが基本路線です。Ｄ委員さんがおっしゃる協議会でたまたま出ていないということもあるかもしれませんが、他の協議会では学校側からこういったことがしたいといった意見に基づいて進めております。生涯学習課においても各学校を訪問して管理職だけでなく担任の先生等も含めて、思い付きでも何でもいいので児童・生徒にさせてみたいこと又は意見があれば吸い上げてくださいとお願いしています。そのため、今後出てくると思いますのでよろしくお願いします。また、公民館主事も学校訪問に同席しますし、学社融合の担当で元先生もいてまして事務レベルで協議をしたりもしています。実際やりたいことが出来るのかどうかというのもあるのですが、出来るだけ実現できるように協議会においても協議をしています。

Ｄ委員：温度差があるのも分かるんです。先生が個人的にこれをしてくれませんかというのは聞くんです。私も言われたりするんですけど。校長先生がどんな人材がいるかみんな知っているわけではないですよね。広報などに何かやってくれる人いませんかと聞くことで、私こういうことを子どもに教えたいという人が出てくると思うんですけどね。漠然としたことでも聞いてみれば、すごいことが出てくると思うんですけど。

事務局：公民館がそういう人材を把握しているのが理想的だと考えています。これまでも地区公民館ごとに人材をリストアップしておりますが、人材の高齢化があるなかで代わりの方が出てこないのが問題点となっています。しかし、今も公民館が募集をかけたり、地域のつながりのなかで探したりなど、公民館によってやり方は違いますが、人材の募集をしております。

副議長：問題は情報の伝え方とか伝わり方かなと思います。私の近所だと月一回、校長先生が作る校長室便りというのが町内回覧版で回ってくるんですが、そこで図書ボランティアを募集してました。そして、何か月かしたら、図書ボランティアが集まりました、こういうことをしていますと案内されてました。学校側が求める状況もあるし、私の経験でいうとイベントボランティア募集したらなかなか難しい人が来たりして困るケースもありました。頼む人が増えるほど、頼む側の仕事が増えるというのが得てしてありますので、そういう事情もふまえながらピンポイントでその学校に応じた事を公民館報もそうですし、人づてが一番かたいと思うんですが、そういう回覧で校長先生に伝えるというのもあると思います。

議長：私はちょっと前まで社会人、一般的な地域の人が学校に行って学校の運営に協力することが学社融合だと思っていたんです。ところが、文言をみてみると、学校教育と社会教育の融合というのがあって、地域の人が学校に行くことが学校教育と社会教育の融合になる、それを推進するというのは何をやればいいのかと疑問になっています。

Ｅ委員：一般的な学社融合は学校教育と社会教育の融合という理解で良いです。それは180年ぐらい前のイギリスのデューイさんという哲学者の方も学校教育が始まったイギリスからでも学校と生活の遊離というのがずっとうたわれてて学校だけで育つ子供がこれから社会を生きていくことができるのかという問いがあるなかで、その時は社会教育という言い方はしませんでしたけど、学校教育だけじゃないよねという文脈がずっと問いとしてあるんですね。それをどうやって解決するかとなったときに学校教育と社会教育の融合というところで田辺市は、平成19年に学社融合宣言をして、国よりも11年早く、県より１年早く学社融合に取り組みだしました。それで学社融合推進協議会が出てくるとちょっとややこしいんですね。和歌山県のきのくにコミュニティスクールというのは田辺市での学社融合推進事業と学校運営協議会制度、学校の運営に地域の市民の人も入ってもらって実行委員会型で学校を運営しようというマネジメントの話です。和歌山は特殊で、普通はコミュニティスクールというのは協議会のことだけを指すんですが、きのくにと頭につくと協議会と共に田辺市でいう学社融合推進事業がくっつく形で展開されてるんです。これは知事が全市町村にということで広川町以外は導入されているんです。その時に田辺市はあえて屋上屋で別に協議会をたてるのではなく、今までやっていた学社融合推進事業を引き継ぐ形で学校運営協議会のことを学社融合推進協議会というふうに位置付けたんです。これはあくまでマネジメントの話です。マネジメントか取組みの話か迷われると思うんですけど、学社融合という言葉に迷いが生じるのは、和歌山県のきのくにコミュニティスクールが根源にあります。マネジメントなのか協議会なのかというのは田辺市としては２つとも課題としてあります。

事務局：田辺市でいう学社融合推進事業は平成19年を元年としてずっとやってきましたが、平成30年から学校運営協議会の機能を作らないといけないとなった時に屋上屋になってはいけないので両方の役割をもつ組織として学社融合推進協議会を各学校に置きました。

Ｅ委員：和歌山県のやり方と一緒ですね。和歌山県でいうきのくにコミュニティースクールが学校運営協議会ときのくに共育コミュニティー、田辺市で言えば、学社融合推進協議会が学校運営協議会と学社融合推進事業の２つの機能を持っているということですね。

事務局：そうです。学校運営協議会と地域学校協働活動を行う組織と両方を行う組織として各学校に学社融合推進協議会を置いています。重点プラン②の２、３行目に書いている学校の運営に関して知恵を出し合いというのは学校運営協議会の役割であり、その後の事業の展開は地域学校協働活動の役割となります。アクションプランは社会教育を重視し、事業に重みをもたせています。学校運営協議会についてはそこまで書いていないですが、知恵を出し合う場として学校運営協議会があって活動事業も検討するということです。

議長：協議会で依頼があるのですか。

事務局：学校運営協議会の役割として年度当初に学校長から学校運営の方針を聞いて承認してから、地域学校協働活動の内容を検討します。そこで学校がやりたいことに係る人材がいない場合などは、公民館が地域との橋渡しとして探してみるなどを経て実施するというのが大きな流れとなります。ただ、地域によって歴史があり、運営上の違いはあると思います。

Ｆ委員：中芳養中学校の場合なんですけど、運営協議会については中学校校区だけの場合もあれば小学校区もありますが、中芳養では中学校・小学校・幼稚園が一緒になって協議会を開いています。毎年、最初の第１回目に各園長・校長の運営方針を説明して、その場で承認をいただきます。第２回目は委員さんに学校に来ていただいて授業など色々な様子を見ていただいて、様々な課題を話すなかで意見をいただきます。第３回目で中芳養の場合だと夏祭り実行委員会のメンバーがほとんど同じなので、この前の会議では夏祭りをどうするのか話したり、こういうことをしたいけど時期的にどうかなとか人材的に誰かなと話したり、来年度熱中症対策として体育大会を時期変えようかと思うのですがどうですかなど話します。その場を通じて、学校側から地域の方々に色々なことをお願いしたり、逆に学校に対してこうですよと意見をもらったり、２つの側面で進めています。

（２）田辺の明日を考えるシンポジウムについて、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ｄ委員：シンポジウムの時の司会の山下さんはどうやって決まったんでしょうか。

副議長：中止になりましたが、一昨年の市長ときよちゃんの対談の流れからです。地域の事をよく知っていて地域の良い所を語ってもらうのに合っているからです。

Ｄ委員：すごく違和感があったんです。指名してあてた人が講座に関係ないようなことを話していて、どうしてあの人をあてたのかとなと。

Ｅ委員：時間の関係でしょうね。私も時計を見てこのままだと余るなと思いました。最初は会場の人をあてないし質問しないとなっていました。

副議長：最初の人はすごいテーマに合っていて良かったんですが、同じ形できよちゃんが知った顔であてたんでしょう。

Ａ委員：運営について、社会教育委員の集合時間が15分前になっていたんですね。これまではもう少し早く集まっていたんですよ。これでいいのか、受付はどうするのかと事務局に聞いたら、受付は３人頼む予定ですので他の委員さんは15分前でいいとのことでした。ではその３人は決まっているんですかと聞いたらまだ決まっていませんとのことだったので、私は12時45分に来ますのでその１人に入れてくださいと言いました。当日、早めに行くとＤ委員も他の委員もいらっしゃいました。Ｄ委員は本宮からで遠いですよね。それを知らなかったから早めに来たり、もうちょっと詰めがあっても良かったのではないかと思いました。

事務局：シンポジウムの出欠確認と一緒にタイムスケジュールも送らせていただいたんですが、それだけでは分かりにくかったと思います。次回からは、定例会等で共有をはかりたいと思います。

Ａ委員：当日、間に合ったからいいんですけど、アンケートの回収で前回のスポーツパークの時にアンケート回収箱を用意していませんということで作ってもらったりしたんですね。今回は置いといてもらって、集めるということでどうするのかいうことをもうちょっと詰めがあってもいいのではないかなと思いました。

議長：社会教育委員の皆さんは、自分達が企画して参画しているという意識が大変高いんですね。ぜひ、その事前打合せをお願い出来たらと思います。挨拶で言うのを忘れたんですけど、社会教育委員の皆さま方、当日、ぱっと集まって役割分担をして、名札・アンケートの回収を恙無くやってくださって皆さん一人一人すごいパワーを持った方なので皆さんを上手に動かしていただいたら、皆さん仕事してくださるので今後どうぞよろしくお願いします。

Ｇ委員：アンケートのQ５の上から３番目、私が感じた事と一緒で田辺の明日を考えるとタイトルが大きすぎるので的を絞った方がというので、面白い人がすごい事を喋りますというのが伝わった方が結果的にはあの場の空気にぴったりだったかなと思います。割り切ってそっちに振っても良いのでは。全方面を気にしながら少しずつ歩んでいくよりも一点突破の方がこの試みには向いているのではないかと思いました。

Ｈ委員：当日参加出来なかったので、大変聞きたかったなと思いながら話を聞いていました。私の長男が少年野球を始めまして、休日が平日よりいろいろあって、今までより時間がきびしいなと。アンケートを拝見したら、最後のご自由にお書きくださいと下から４番目ぐらいに「若者世代もまちづくりに関わっていくべきとは思いますが、仕事をして、家事をして、～」と書いていて本当にそうだなと思います。Ｅ委員がおっしゃっていたYouTube配信をぜひやって欲しいなと。広い田辺市で大塔、中辺路、龍神、本宮と行事を１つにやるのは難しいので、ハイブリッド配信じゃないですけど、同時に別会場でもやることで職員さんも別の日にもう一度しなくていいので負担が減ると思います。去年、私の息子の小学校であった学習発表会の形がコロナの影響で変わっていて、自分たちの発表が終わったら体育館を去っていくのでなんだろうと思っていたら、各教室で他の子達の発表を見ていて、コロナ対策でもあり、良い活用だなと思いました。

Ｆ委員：初めてシンポジウムに参加させていただいていろいろ学ばせてもらったな、気づかせてもらったなと思うことがたくさんありました。私自身が感心したのは共創という言葉であったり、人づくりはまちづくりであるという基本のところは話を聞きながら腑に落ちたというか心に残りました。また、市長の言葉で決断する時の基準をつくっているということ、市長も悩んでいることを聞きながら、そうなんやと実感できました。10年後、20年後に自分の判断が問われるという話のなかで、自分達が今している教育、社会教育もそうですけど、10年、20年先に結果がでるんだなという視点で取り組んでいきたいなと思いました。また、若者達は仕事という概念が変わってきているということで私が思っている仕事、キャリアと若者が思う仕事、キャリアはずれていると聞いてそうだなと実感しました。今度、山本さんが来てくれるのでそういう話を外から子供達に話すことで色々なものを生み出せるのではないかとそれを聞きながら楽しみに思いました。あと、田辺らしさというのは面白いなと。そういうのをどういうふうに共有していく、イメージしていくのか、らしさというところに深みがあるなと。どういうふうに田辺らしさをイメージしていけばいいのか、そこに田辺の良さや魅力が含まれているのでそれらをどう共有してイメージ出来るかが大事だなと。中芳養中学校、中芳養らしさとは何かと思いながら聞かせていただきました。あと、人づくりは自分が気づいてきっかけや役割や場所づくりから変わっていくという話と結びついたのが、この間、生徒総会がありまして、私はいつも「わかる」から「かわる」と言っているんですが、生徒がスローガンとして変える努力と変わる勇気と言ったんです。いろいろと話を聞きながら、自分の仕事などと結びつけながら聞かせていただくことが出来て本当に良かったと思います。もっとこの話をいろんな人に聞いてもらえればいいのになと思った次第です。

Ｅ委員：タイトルの田辺の明日を考えるは去年もそうだったんですが、シリーズものにしているのでこれからは、田辺市まちづくり市民カレッジ**＋**シリーズ田辺の明日を考えるに、地域づくりは～とかをつけたら、焦点化したタイトルの方がいいのではという声にお応えできるのでは。田辺の明日を考えるという言葉が好きなんですよ。５年前の川北先生の講座からあんまり変わっていないと思います。そこは変えずにシリーズ化していけばいいのではないかと思いました。

副議長：参加者が集まりにくかったということでタイトルの分かりにくさと面白無さかなと。前の移住者の妻は動員しなくても集まりましたし、聞いてほしい人が来たということでタイトルは大事だなと思いました。内容はすごく良かったです。事前の準備でさっきご指摘もあったとおりで、打ち合わせでタイムスケジュールが分かりにくいと市長から指摘があったりしました。委員さんは本当に動ける人ばっかりなので、早い目に来てもらって大きな流れを指示すれば動いてくれますので遠慮なく言ってもらえたらなと思います。

（２）人材育成事業企画部会について、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ｅ委員：社会教育委員の参加はコロナの関係で限定になるんですか。前は議長・副議長だけでしたけど、そういう形になりそうですか。場所が広ければどうですか。

Ｆ委員：場所が音楽室なのでそんなに広くないんです。

Ｅ委員：直前で決まったら教えてください。

５．その他

　Ｇ委員より、「南方熊楠研究の経緯と展望」について報告。

　議長より、「第61回全日本花いっぱい田辺大会」について報告。

６．閉会　副議長挨拶